

2023年度 環境経営レポート

Environmental Management Report 2023

<2023年4月－2024年3月>



わたしたちは持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています

発行日：2024年6月17日



Top Message ～トップメッセージ～

私たちは、お客様満足の実現と環境配慮を意識し、
たゆみない技術開発・技術向上を進めてまいります。

代表取締役社長

山崎 泰三



ミスズ工業は、1965年の創業以来、精密加工技術と半導体実装技術を柱とし、お客様が求める高精度、高品質な製品づくりに取り組んでまいりました。しかし、現代社会がめざましく変化する中で、産業技術のあり方も大きく変貌しています。高度な機能、精度、品質が希求されると同時に商品のライフサイクルは短縮され、従来のものづくりにとらわれない発想やフレキシブルでスピーディーな対応力が強く求められています。マーケットインの視点に立ち、自らの持つ要素技術を複合させ、お客様に役立つ付加価値創造を提案することこそが私たちの使命です。そのために私たちは、精密部品事業、精密組立事業、ロボティクスソリューション（RS）事業という3つの事業領域を基盤とし、その事業ドメインを「クリーン＆ファインテクノロジー」と位置付け「細密」「複合」「スピード」をキーワードとして、技術・施設・環境・体制のあらゆる面から、お客様満足を実現する企業づくりを推し進めていきます。

第二の創業。SDGsへの取り組みをスタートさせ、私たちは、お客様満足の実現、環境配慮を意識し、たゆみない技術開発・技術向上を進めます。



Contents ～目次～

(01) 会社概要	1ページ
(02) 事業所所在地／会社沿革／事業紹介	2ページ
(03) 環境経営方針／環境管理体制	3ページ
(04) 2023年度 環境経営目標・計画・結果・評価	3ページ
(05) 省資源・省エネ活動実績	4ページ
(06) 環境関連法規制の遵守状況	4ページ
(07) 代表者による評価と指示	5ページ
(08) 2024年度 環境経営目標と活動計画	5ページ
(09) 環境経営計画（中期計画）	6ページ
(09) SDGsへの取組	7ページ
(10) 環境活動	8ページ



Company Profile ～会社概要～

社 名：株式会社ミスズ工業

代表者：代表取締役社長 山崎 泰三

責任者：環境管理責任者 CSR部長 藤森 健

創 業：1965年4月1日

資本金：1億円

事 業：■精密部品事業（プレス金型の設計・製造、プレス部品・精密部品の製造）

■精密組立事業（精密部品の組立、COF＜Chip on Film＞の製造）

■RS事業（装置設計・製造、装置受託組立）

U R L：<https://www.miszu.co.jp/>

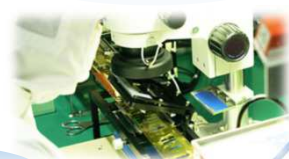


ミスズ工業
ホームページはこちら

精密部品事業



精密組立事業



RS事業





Factory Location ～工場所在地～

※従業員数は2024年4月1日時点

本社・諏訪工場



1964年 創業

長野県諏訪市四賀3090

従業員：127人

- ・金型設計～製造
- ・精密プレス部品製造
- ・表面処理
- ・精密部品組立

岩手工場



1990年 創業

岩手県北上市北工業団地1-15

従業員：106人

- ・精密プレス部品製造
- ・表面処理
- ・COF実装

大阪営業所



2006年 開設

大阪府吹田市江の木町 17-20

バルムハウス江坂 205号

従業員：1人

箕輪工場



1984年 創業

長野県上伊那郡箕輪町中箕輪1536

従業員：46人

- ・装置設計～製造
- ・装置受託組立
- ・精密部品組立

※グループ会社

中国：明思作機電（無錫）有限公司

香港：ミスズ工業（香港）株式会社



Corporate History ～会社沿革～

- 1964年：前身の 山崎精器株式会社 設立
- 1965年：株式会社ミスズ工業 と改め、創業
- 1984年：箕輪工場 創業
- 1990年：株式会社東北ミスズ 創業
⇒2002年合併し岩手工場とする
- 1998年：ISO9001認証取得
⇒2013年社内システムに切替
- 2001年：ISO14001認証取得
⇒2013年社内システムに切替
- 2003年：明思作機電（無錫）有限公司 設立

- 2006年：大阪営業所 開設
- 2015年：創業50周年
- 2018年：ISO9001認証再取得
- 2019年：ミスズ工業（香港）株式会社 設立
- 2021年：エコアクション21認証取得
- 2022年：長野県SDGs推進企業制度登録



Business Introduction ～事業紹介～

精密部品事業

- プレス金型の設計・製造
- プレス部品・精密部品の製造



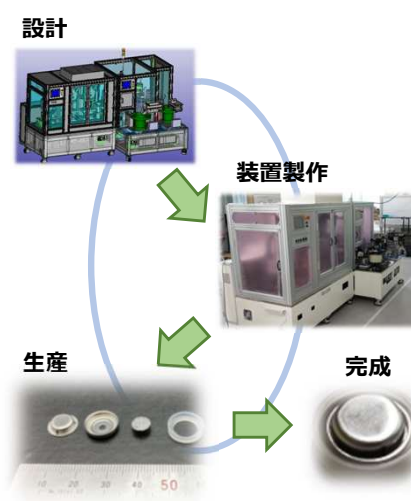
精密組立事業

- 精密部品の組立
- COF<Chip on Film>の製造



RS事業

- 装置の設計・製造
- 装置の受託組立





環境経営方針

環境基本理念

当社は、社員・会社・社会の“三社成長の精神”と法令・規制遵守を基本とし、SDGsを踏まえた「環境にやさしい企業活動」により、広く社会に貢献します。

環境方針

当社は、環境基本理念にある「環境にやさしい企業活動を行う」に基づき、継続的な環境に配慮した企業活動を行う事で環境保護および汚染防止を推進します。

- (1) 当社に關係する環境法令および規制を順守します。
- (2) 当社が行う全ての企業活動において、環境への影響を評価し、身の丈にあった目標を定め、活動を推進します。
 - ① 二酸化炭素排出量の低減を推進します。
 - ② 資源の有効活用と廃棄物のリサイクルの徹底を図ります。
 - ③ 環境に配慮した製品の提供・開発を図ります。
- (3) 環境活動を向上させるため、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図ります。
- (4) 全従業員に対し、環境に関する教育および意識向上活動を実施します。

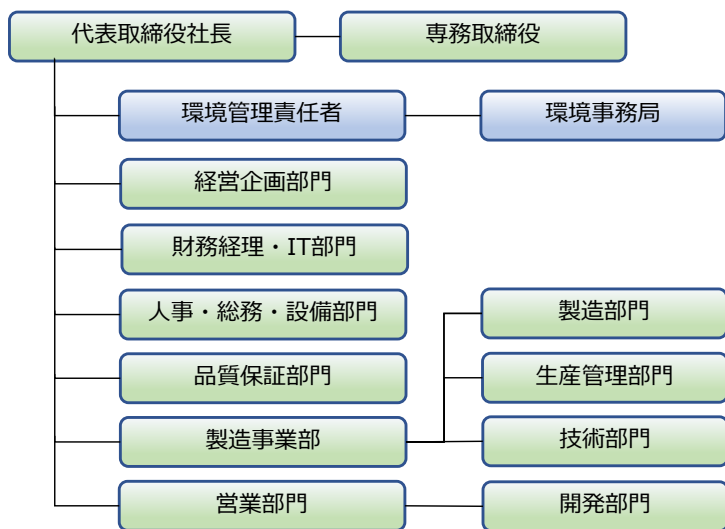
※環境方針は、文書により全従業員に周知させ、社外にも公表します。

2023年4月1日制定
代表取締役 山崎 泰三



環境管理体制

※エコアクション21認証及び登録対象範囲：全組織全活動



役職	責任 及び 権限
代表取締役社長	- 環境管理責任者の任命 - 環境経営方針の制定 - 環境マネジメントシステムの管理に必要な資源の準備、定期的見直しの実施 - 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	- 環境マネジメントシステムの確立、実施、維持、継続的改善、実施状況報告 - 環境関連法規制の遵守と教育訓練の実施 - 緊急事態への準備と対応訓練の実施 - 外部からの提案、苦情の受付
環境事務局	- 環境マネジメントシステムの事務局運営 - 環境関連法規制の維持管理と遵守評価 - 環境関連文書及び記録の作成、保管
部門責任者 全従業員	環境方針の理解と環境活動の実施



2023年度 環境経営目標・計画・結果・評価

2023年度環境経営目標および計画に基づいた結果とその評価は以下の通りとなります。

【評価基準… 取組が出来た：○ 取組が出来なかった：×】

目標	取組計画	取組結果	評価
・環境内部監査の実施	・2022年度内部環境監査を実施する	・2023/4/18～26実施 重大指摘事項なし	○
・2022年度活動結果を経営層に報告	・2022年度環境マネジメントレビューを経営層に報告する	・2023/5/17実施	○
・環境経営レポートの作成と公開	・2022年度環境経営レポートを作成する	・2023/6/10完成 エコアクション21事務局へ提出	○
・「エコアクション21」認証継続	・外部認証「エコアクション21」の更新審査を受審し、認証を継続する	・2023/8/7～8更新審査受審 2023/10/26認証継続決定	○
・環境関連法規、顧客要求事項の遵守	・環境法規制一覧表による遵守評価を実施する	・法規制一覧表による遵守評価の実施と最新法規制を確認	○
・環境に配慮した製品製造への取組実施	・環境に配慮した製品製造への取組を実施する	・製造部門を中心に取組を実施	○
・省資源、省エネ活動 前年対比原単位△1% ①二酸化炭素排出量削減 ②一般・産業廃棄物排出量削減 ③水資源削減	・インフラ機器の新規導入および更新は省エネ機器を選定する ・毎月の省資源省エネの実績を取り纏め、従業員に公開する ・環境目標および活動の進捗状況を確認し評価を実施する	・新規インフラ機器は省エネ機器を選定及び設置を実施 ・実績結果は環境ニュースにて従業員へ公開実施 ・活動結果を確認し経営層への報告を実施	○ ○ ○
・環境関連教育の実施	・新規採用者を対象とした環境基礎教育を実施する	・新規採用者（新卒・中途・派遣）に基礎教育を実施	○



省資源・省エネ活動実績

2023年度環境経営目標における省資源・省エネ活動の目標値とその実績値は以下の通りとなります。

【評価基準… 目標達成：☀️ 目標未達：☔️】

取組項目（原単位算出方法）	目標	目標基準値	目標値	実績値	評価
①二酸化炭素排出量削減 （原単位＝使用エネルギー原油換算kL／生産高）   	前年比原単位 1%以上削減	0.648	0.642 以下	0.614 (-4.3%)	☀️
◆全従業員による省エネ活動（節電アクション）の推進や、工場インフラ機器を省エネ機器へ更新したことなどにより目標達成することが出来ました。					
②一般・産業廃棄物削減 （原単位＝一般・産業廃棄物kg／生産高）  	同上	160.59	158.98 以下	148.08 (-6.8%)	☀️
◆全社的に前年比で廃棄物排出量を減らすことが出来ました。 本社・諏訪工場の汚泥の排出量削減による効果が大きいです。					
③水資源削減 （原単位＝水使用量m3／生産高）  	同上	10.26	10.16 以下	9.44 (-7.0%)	☀️
◆全社的に前年比で水の使用量を減らすことが出来ました。					

※2023年度CO2総排出量：3,744,455 kg-CO2（前年比-5.70%）

※CO2排出係数（kg-CO2/kWh）電気事業者別排出係数2018年度実績：

中部電力ミライズ：0.457 東北電力：0.522 関西電力：0.352



環境関連法規等の遵守状況

当社に関連する環境法規は以下の通りとなり、環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘はありません。

【遵守状況判断基準… 法令遵守：○ 法令違反：× 対象なし：－】

法規制等	遵守状況	法規制等	遵守状況
大気汚染防止法	○	公害防止組織整備法	○
騒音規制法	○	特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	○
振動規制法	○	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	○
水質汚濁防止法	○	浄化槽法	○
下水道法	○	化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）	－
消防法 （危険物に関する政令）	○	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法／PRTR法）	－
土壤汚染対策法	○	資源の有効な利用の促進に関する法律 （資源有効利用促進法＜リサイクル法＞）	○
毒物及び劇物取締法	○	使用済自動車の再資源化等に関する法律 （自動車リサイクル法）	○
特定家庭用機器再商品化法 （家電リサイクル法）	○	ポリ塩化ビニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法（PCB廃棄物特措法）	－
地球温暖化対策の推進に関する法律	○	工業用水法	－
エネルギーの使用の合理化等に関する法律	○	工場立地法	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○	製品含有化学物質管理基準（当社基準）	○



代表者による全体評価と見直し・指示

2023年度マネジメントレビューに基づく、代表者による 全体の評価と見直し及び指示は、以下の通りとなります。

2023年度 全体評価	2024年度 取組の指示
環境経営方針について	・ 2023年4月1日制定方針からの変更なし
環境経営目標と計画について	・ 2024年度環境経営目標達成に向けた活動を実施すること
環境組織体制について	・ CSR部を環境推進部門とすることに変更なし
環境マネジメントシステムの改善	・ 環境内部監査事務局課題に関して改善対応すること ・ 環境法令に関する理解不足を、社内教育により理解向上するとともに運用方法を定着させること
その他	・ 電力監視装置は安価で個別測定できるものを継続検討すること ・ 監視装置の活用によりPoint電力を見える化できるようにすること ・ 漏気測定と修繕を継続実施すること ・ 危険物の購入量と保管量の見直しを行うこと ・ 故障設備の改善や出来るところの照明LED化を進めること ・ 省エネ診断結果（岩手地区）による改善アイテムを継続実施すること ・ 顧客からのサプライヤーへの要求がレベルアップしてきているため、顧客要求の変化を更に注視し社内対応していくこと



2024年度 環境経営目標と活動項目

2023年度活動結果に基づき、2024年度の目標を以下に設定し活動します。

●環境経営目標

項目		目標	
エコアクション21認証（更新）取得		環境内部監査実施、外部中間審査受審・認証継続	
2023環境経営レポートの作成と経営層への報告		環境マネジメントレビュー実施、環境経営レポート公開	
環境に配慮した製品製造への取組実施		化学物質の適切な管理の実行	
省資源 省エネ活動	二酸化炭素排出量削減	前年対比原単位△1% 目標原単位	0.608以下
	一般・産業廃棄物排出量削減		146.60以下
	水資源削減		9.35以下
環境法規制および顧客要求事項の遵守		法令遵守評価実施	
環境関連教育の実施		社内教育実施	

●2024年度 環境経営活動計画

■ 二酸化炭素排出量削減活動の継続推進



- ・ 照明のLED化やインフラ設備更新など、中長期目線での更新計画を検討する。
- ・ 工場内における製造設備、インフラ等の電力使用量の見える化を継続検討する。
- ・ 掲示等の環境啓蒙活動は継続し、教育等を通じて環境への意識向上を図る。



■ 環境にやさしい生産活動の継続推進と、一般・産業廃棄物および水資源削減活動の継続推進

- ・ 環境にやさしい工法、梱包改善等を推進する。
- ・ 廃棄物の再資源化活動を継続し、拠点間で情報共有・展開を進める。



環境経営計画（中期計画）

当社の環境経営に関する中期計画は以下の通りとなります。

重点項目	計画・目標	2022結果	2023結果	2024	2025	2026	～	2030
●環境マネジメントシステムはSDGsと関連付け、企業価値を高める活動にする	①SDGsの知識習得・社内啓蒙 ②環境経営レポートによるSDGs環境活動公開 ③SDGs宣言（長野県登録制度活用）と取組	①SDGs基礎知識習得 ②2021レポートにSDGs活環境活動公開 ③長野県制度2022/4/28登録2022/6/27宣言	①SDGs基礎知識習得継続 ②2022レポートにSDGs環境活動公開 ③SDGs重点目標達成に向けた取組継続	前年度実績を集計し外部公開				SDGs外部宣言環境目標達成 
●環境マネジメントシステム（EA21）の運営を定着し、企業責任を果たす	①外部認証の維持・更新 ②環境経営レポートの作成・公開 ③環境関連法規の適合検証 ④マネジメントシステムの監視	①外部認証維持2022/8/30～31受審2022/10/21維持 ②2021環境経営レポート公開2022/6/10 ③環境法規制遵守評価実施2022/4/11～28 ④内部環境監査による運用監視実施2022/4/18～28	①外部認証更新2023/8/7～8受審2023/10/26更新 ②2022環境経営レポート公開2023/6/10 ③環境法規制遵守評価実施2023/4/12～19 ④内部環境監査による運用監視実施2023/4/18～26	維持	更新	維持		外部認証継続運用 
●環境指標（SDGs目標）達成に向けた取組を推進する	■ 自社設定値：2019年度対比△1%/年 ①二酸化炭素排出量（エネルギー使用量原単位）前年対比△1% ①前年対比△3.5%：達成 ②廃棄物排出量（原単位）前年対比△1% ②前年対比△2.6%：達成 ③水使用量（原単位）前年対比△1% ③前年対比△16.0%：達成 ■ 経済産業省設定値 ④5年間平均原単位△1%以上/年 ④5年間平均原単位△1.3%：達成 ⑤事業者クラス分け制度Aランク維持 ⑤Sクラス確定	①前年対比△4.3%：達成 ②前年対比△6.8%：達成 ③前年対比△7.0%：達成	前年度対比△1% 前年度対比△1%以上					2019対比△10%達成 5年間平均原単位△1%以上継続
●省エネルギーへの具体的な取組プランを推進する	①省エネルギーに対する課題・問題意識を持ち、生産活動におけるエネルギー使用量・経費の見える化 ②県・市町村(中小企業)からの再生可能エネルギー情報の収集	①エネルギーの見える化実施・電力使用量、電力量予測推移見える化 ②情報収集の継続	①エネルギーの見える化実施・見える化継続 ②情報収集の継続	省エネ活動推進				再生可能エネルギー導入 
●再生可能エネルギーを研究し導入に向けた取組を推進する	③再生可能エネルギー導入投資効果シミュレーションの実施 ※太陽光パネル導入効果含む	③太陽光パネルの導入検討開始	③太陽光パネルの導入検討継続	再生可能エネルギーの調査・研究 再生可能エネルギーへの取組推進				



SDGsへの取組

SDGs達成に向けた経営方針を策定し活動を推進しています。



SDGs達成に向けた経営方針

当社の経営理念にある「個人の成長が会社の成長」「会社の成長が社会の成長」の理念のもと、「環境」「社会」「経済」の変化に伴う、人類共通の重要課題を全従業員が認識し、企業活動におけるあらゆる面で自主的かつ積極的に活動していきます。目指す姿を実現するため、全従業員がその役割を果たしSDGsの目標達成に貢献していきます。



当社の3つのSDGs重点的な取組と目標値

本社・諏訪工場及び箕輪工場がある長野県の独自制度「長野県SDGs推進企業登録制度」へ2022年4月に登録しました。本制度は3つの重点取組を決め、目標達成に向けた活動を推進しています。

SDGs達成に向けた重点的な取組	2030年に向けた指標	3側面	2022年結果	2023年結果
①製造工程において排出される二酸化炭素排出量削減	2030年目標： △10%（2019年対比） <原単位にて年率△1%>	環境	原単位前年対比 3.50%削減 ⇒年率1%削減達成	原単位前年対比 5.70%削減 ⇒年率1%削減達成
②女性が活躍できる企業づくり	2030年目標： 女性管理職比率10%以上	社会	女性管理職登用なし ⇒次期管理職育成に 向けた教育を実施中	女性管理職登用なし ⇒次期管理職育成に 向けた教育を継続中
③金属資源を大切に、材料にやさしいものづくり開発で部品・製品を市場に提供する	2030年目標： 金属資源廃材率15%削減	環境 社会 経済	岩手工場プレス部品単 体での取組実施中 ⇒目標達成に向けて 進行中	本社・諏訪工場へ水平 展開し取組を実施中 ⇒全社での目標達成に 向けて進行中



環境活動

2023年度も様々な省資源・省エネ活動を実施しました。

漏気測定器による真空／圧空配管等の漏れ修繕

2022年度は、電力会社にご協力いただき、工場における配管のエア漏れ(漏気)測定を実施しました。漏気が確認できた箇所は、配管の修繕や清掃を行い、コンプレッサー稼働の効率化を行いました。

2023年度は、自社で漏気測定器を購入し、定期的に測定から修繕を実施しました。

JFEアドバンテック社製 漏気測定器
漏気箇所を可視化し、漏れ流量が測定できます。

⇒



2023年度改善効果は以下の通りです。

実施項目	漏れ箇所	修繕実施箇所	改善効果（年間）	
			電力（kWh）	金額（千円）
本社・諏訪工場	58	24	13,106	267
箕輪工場	22	3	3,588	87
岩手工場	84	84	123,485	2,223

※未修繕箇所は、2024年度に改善を進めています。

漏気測定器による
環境改善活動風景



★2023年度 漏気修繕による改善効果

電力… 140,179 kWh
金額… 2,577 千円

Good!





省エネ設備に更新

本社・諏訪工場では、コンプレッサーをインバータ制御タイプに更新しました。岩手工場ではコンプレッサーとクリーンルーム空調機を更新しました。更新設備は省エネタイプを選定しました。



本社工場
2023年12月
コンプレッサー更新



岩手工場
2023年8月
クリーンルーム
空調機更新

岩手工場
2023年11月
コンプレッサー更新



省エネ最適化診断での改善水平展開

2022年10月に岩手工場にて、一般社団法人省エネルギーセンター様の「省エネ最適化診断」を受け、数多くの省エネ改善提案をいただきました。その中の一つに、凍結防止ヒーター用節電器の設置がありました。昨年岩手工場にて設置し、省エネ効果が確認できたため、本社・諏訪工場や箕輪工場の水道管にも同機を取付ける水平展開を行いました。



本社・諏訪工場
箕輪工場
凍結防止帯
節電小太郎設置

施設内照明のLED化

2022年は生産工場内の照明をLED化しましたが、2023年度はクリーンルームや会議室、食堂施設の照明をLED化しました。本社・諏訪工場の通路照明をLED化し、更に人感センサー方式に変更したため、必要な時だけ点灯するようにしました。

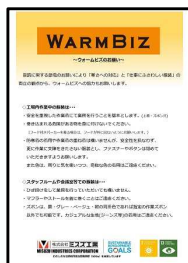
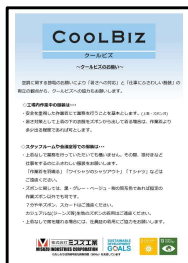


本社・諏訪工場
食堂LED化

COOLBIZ／WARMBIZの実施

2022年度に引き続き、当社オリジナルの「COOLBIZ」と「WARMBIZ」について、全従業員が取り組むことができるよう、服装ルールを明確にし、周知とポスター掲示を行いました。

2023年度は新たな取組として冬期限定で更衣室での着替えの寒さへの配慮と、空調節電協力のため、社服での通勤・退勤を許可しました。



工場周辺の環境美化活動

毎週水曜日の始業前を「5Sの日」として環境美化活動の協力を従業員にお願いし、実施しています。工場敷地内の草取りやゴミ拾い等を行い、環境保全に努めています。





エコキャップ回収活動

2021年からペットボトルキャップ（エコキャップ）回収活動を推進しています。回収したキャップはエコキャップ回収活動をしている業者様に提供し、リサイクル材として再利用されます。その収益金が様々なワクチンや医療品の寄付金に使用されます。回収活動は今後も継続します。

●エコキャップ提供数

	年度	数量	個数	Co2削減効果	ワクチン数
岩手工場	2021年度	13.5 kg	6,075 個	47.84 kg-CO2	2.30 人分
	2022年度	25.5 kg	11,475 個	90.36 kg-CO2	4.34 人分
	2023年度	27.0 kg	12,150 個	95.68 kg-CO2	4.60 人分
本社・諏訪工場 箕輪工場	2022年度	33.0 kg	13,200 個	103.95 kg-CO2	5.00 人分
	2023年度	42.0 kg	16,800 個	132.30 kg-CO2	6.36 人分
合計		141.0 kg	59,700 個	470.13 kg-CO2	22.60 人分

※計算根拠 1kg=400個
ワクチン1人分=約6.6kg（約2,640個）
1kg（400個）を焼却すると3.15kgのCO2が発生



回収業者へ搬送します。



Good!



サントリービバレッジソリューション株式会社様に回収BOXをいただき、全従業員で貯めています。

本社・諏訪工場及び箕輪工場で回収したエコキャップは、株式会社Green様に、岩手工場では株式会社Peace ing様に引き渡しています。

本社・諏訪工場 廃油ピット洗浄、漏洩有無確認

本社・諏訪工場の廃棄物置場には、生産で使用した油類や溶剤の廃液を置くために専用の廃油置場を設置しています。弊社の廃油置場は近隣の河川や土壌等への漏洩を防止するために、地下ピット槽構造になっています。万が一、廃液が置場で漏洩してしまっても、約2,000Lの廃液を受け止めることができます。

数年に1回、ピット内に溜まった雨水やゴミ等を汲み取り廃棄しています。現在の廃油ピットを設置してから10年以上が経過しましたが、これまでにピット槽内の廃液を全て汲み取ることはしていませんでした。2023年10月にピット内の廃液を、株式会社ダイセキ様に汲み取りと洗浄をしていただきました。また、このタイミングでピット槽からの漏洩等がないか確認を行い、槽の破損、亀裂等がないことを確認することができました。

洗浄作業開始前



洗浄作業中



洗浄後



Good!



株式会社ダイセキ様へ
運搬・処理



タンクローリーへ
吸引完了





環境緊急時対応訓練の再開

2021年以降コロナ禍だったため、従業員が集合しての環境緊急対応訓練が実施できていませんでした。2023年は11月の防災訓練に合わせ、環境緊急対応訓練として「油類・溶剤等の漏洩時緊急キット取扱訓練」を実施しました。環境事務局が指導員となり、従業員に、万が一油や溶剤を漏洩させてしまった場合、外部漏出を防ぐために、漏洩キットの使用方法を訓練しました。

●環境緊急時対応訓練実績

年度	訓練内容	訓練形式	実施者（指導員）
2020年度	漏洩キット取扱訓練 薬品安全教育	製造部門の職場単位で実施	環境事務局 製造部門課長
2021年度	漏洩対策キット点検	コロナ禍だったため環境内部監査の チェックリストに盛り込み点検を実施	環境事務局
2022年度	↑	↑	↑
2023年度	漏洩対策キット取扱訓練	集合形式での実施を再開 	↑

●2023年度訓練風景



その他の取組

その他にも環境保全を意識した取り組みを実施しました。

取組内容	
・エアハンドリングユニットの流量調整	 
・空調機のブースター停止	
・研修施設の冬季水道停止 トイレ便座ヒーター＆凍結防止帯OFF	
・凍結防止帯の未使用期間ブレーカーOFF	
・空調のフィルター掃除	
・工場休日のコンプレッサー＆空調機＆真空ポンプの停止	
・帰宅時、未使用箇所の圧空バルブの閉栓	
・空調を節電モードに設定	
・工場の夜間稼働停止	
・照明スイッチの手元化	

「2023年度 環境経営レポート」を最後までお読みいただきありがとうございます。

引き続き、環境目標達成に向けて様々な取組を進めていきます。



作成：株式会社ミスズ工業
CSR部（環境事務局）